

県立高等学校再編にかかる大綱策定に向けての意見(検討依頼事項毎整理)

資料2

検討依頼事項	① 第1回創生会議	② 第2回創生会議	③ 高校教育改革に関する基本方針 グランドデザイン(骨子)
I すべての生徒が「自己の在り方・生き方」を主体的に考え、多様な学びと社会参画を実現できる魅力ある新しい県立高校の在り方			
(1) 学科・課程の枠を超えた特色ある教育システムの構築	<ul style="list-style-type: none"> ○専門学科統合／総合選択制高校設置〔学校再編〕 (例) 専門高校×普通科高校 → 総合選択制高校 ○都市部に専門学科の基幹校設置(専門性を担保)〔学校再編〕 (例) 工業高校の専攻科設置 ○段階的再編(農・工・商の連携、総合学科化等)を設計〔学校再編〕(例) 複数学科を束ねた「食と農園科」等 ○地域と連携し、新しい社会や産業に対応する学科の創設 (例) 高校・地域連携イキイキ活性化事業 ○知識供給型からの転換:対話的・実践的授業、論理的推論力を磨く探究のカリキュラム化〔授業改革〕 (例) 佐世保商業高校における「観光ビジネス」 ○長崎の離島・海岸資源を活かした水産分野の学びの導入〔産業・地域・大学連携〕 (例) 上対馬高校へ水産に関する学校設定科目の導入 ○文理融合・総合的な探究の時間の拡充、普通科×専門学科の共同PBL〔授業改革〕 (例) 文理探究科(長崎北陽台、大村、島原、佐世保南、猶興館)、地域科学科(松浦)の取組充実 ○私立高校との協力・連携(多様コース・資格)〔生徒支援〕 ○中学高校兼務(小規模校の教員不足解消) 〔包括的な支援と人材確保〕 	<ul style="list-style-type: none"> ○校区内進学では入学試験を不要とする制度〔入試制度改革〕 ○学年間の境界を緩和し、3年間で単位取得するなど柔軟な学習継続制度〔学校再編〕 ○縦の学年連携(1~3年生が混在)の学び合いを導入し、上級生が下級生を育てる仕組み〔授業改革〕 ○学びへの「興味」や「熱源」を可視化するキャリア形成支援の仕組み〔キャリア支援〕 ○地域・学校を越えて学ぶ越境学習の制度化(例:高大のダブルディグリープログラム発想の応用)〔学校再編〕 ○通学型通信制の導入など全日・定時・通信の枠を超えた新しい制度の検討〔学校再編〕 ○実務ニーズに基づく新しいカリキュラム (例:環境会計の学びなど)の導入〔授業改革〕 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育課程の柔軟化・多様化 ・「個々の生徒の学習ニーズへの対応等に向けた教育課程の柔軟化(教科・科目の柔軟な組換え)やデジタル技術の活用」 ・「普通科改革を通じた特色化・魅力化」「専門高校の機能強化・高度化」 ○学際・探究・STEAM の拡充 ・「文理横断・探究的な学び」「Society5.0に対応したSTEAM教育」 ・「理数系やDX・AIに関する関心の向上・実践的な学び」 ○学びの質保証の連続性(高大接続) ・「高校入試の多面的評価」「大学入試の在り方の検討と出口の質保証」「高校から大学・大学院までの一貫改革」 ○学校運営の基軸整備 ・「校長のリーダーシップの下でのスクール・ミッション/スクール・ポリシーに基づく学校運営」「学びの成果・課題の把握と改善・公表」

県立高等学校再編にかかる大綱策定に向けての意見(検討依頼事項毎整理)

資料2

検討依頼事項	① 第1回創生会議	② 第2回創生会議	③ 高校教育改革に関する基本方針 グランドデザイン(骨子)
(2) 遠隔授業・ICT等を活用した個別最適な学びの実現	<ul style="list-style-type: none"> ○地域横断の教育課程統合(都市部と離島をつなぐ広域連携) [産業・地域・大学連携] (例)都市部高校と離島高校の広域連携 ○DX活用と1人1台端末による遠隔・在宅学習の充実 (併用で孤立防止) [生徒支援] (例)長崎県遠隔教育センターの設置 ○ハブ＆スپーク※3型ネットワーク構築 ハブ校を中心に分校・キャンパス校を連携 [学校再編] 	<ul style="list-style-type: none"> ○DXは前提であり、AIは「問い合わせを深める相手」として活用する視点 [生徒支援] ○遠隔授業の普及により不登校の概念が変化し得るため、移行期の支援が必要 [学校再編] ○全国の卒業生・専門人材とオンラインでつながる仕組みの構築 [生徒支援] 	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT／遠隔の基盤活用 ・「遠隔授業の推進」「地理的アクセスの確保に留意しつつ一定規模の確保、学校間連携」 ・「デジタル技術の活用による学び」「学習成果の把握・改善・公表の仕組み(データ活用)」 ○個別最適・協働的学び／探究 ・「AIに代替されない能力(言語・情報活用・問題発見解決・協働)」「探究的な学び／実践的な学びへの学習観の転換」 ・「主体的・自律的に学修するための環境構築」 ○多様な学習者への選択肢保障 ・「通信制課程の適正化と質確保・向上」「不登校、特別な教育的支援、日本語指導が必要な生徒への対応」
(3) 外部専門機関との連携による持続可能な教育体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ○大学と連携した探究／インターン／共同プロジェクト導入 [産業・地域・大学連携] (例)宇久高校「Uku サイエンスパーク」 ○大学やURA等のリソース活用 [外部資金] 	<ul style="list-style-type: none"> ○大学公開講座の単位認定拡大による学びの多様性の確保 [産業・地域・大学連携] ○企業・NPO・研究者等が学校に常時関与する独自コーディネーター制度の導入 [産業・地域・大学連携] ○地域・企業が抱える課題と学校をマッチングする仕組みの整備 [産業・地域・大学連携] ○高校でのコミュニティ・スクール導入の推進 [産業・地域・大学連携] 	<ul style="list-style-type: none"> ○産業界・地域との伴走連携 ・「産業界の伴走支援を受けた教育課程の刷新・先端分野の専門的指導」「地域産業を支える人材育成」 ・「学校と地域が連携した学力向上・学習支援」、「域内高校への成果共有」 ○大学・高専・国外機関との連携 ・「国内外の大学・高校と連携」「留学生の派遣・受け入れ」「高等専門学校の新設／転換の促進」 ○計画・資金・評価の仕組み ・「都道府県が実行計画を策定」「高等学校教育改革交付金(仮称)」「パイロット基金による牽引」 ・「進捗管理・評価・公表の実施」

県立高等学校再編にかかる大綱策定に向けての意見(検討依頼事項毎整理)

資料2

検討依頼事項	① 第1回創生会議	② 第2回創生会議	③ 高校教育改革に関する基本方針 グランドデザイン(骨子)
2 社会や地域の期待に応える特色ある再編整備の方向性			
(1) 15年後を見据えた規模の適正化(地域ごとの学校数や学校規模、小規模校の再編整備の在り方)	<ul style="list-style-type: none"> ○教育資源の有効活用のため再編整備は不可避だが、離島地域には特別な配慮が必要。[学校再編] ○半島部では専門学科の統合が選択肢となり得る。[学校再編] ○コミュニケーション力や多様なかかわりを育むには一定の人数が必要[学校再編] ○本校、分校方式の運用(単位互換、教員・設備の共同利用)[学校再編] ○離島の高校は地域にとって重要であり、可能な限り存続を希望[学校再編] 	<ul style="list-style-type: none"> ○本土では4学級以上の確保が必要。離島は別枠で柔軟に検討[学校再編] ○小規模離島では基準弾力化や通信制在籍者数の算入などによる維持策を検討[学校再編] ○学校規模をコミュニティ形成の観点(例:ダンバー数)でも捉えることが必要[学校再編] ○30人程度の少人数学級の導入を検討[学校再編] 	<ul style="list-style-type: none"> ○人口減少・過疎化を踏まえた再編 ・「少子化が加速する地域における高校教育の維持や学びのアクセス確保」「学校規模・配置の適正化」「小規模校を含む学校間連携や遠隔授業の推進」 ○多様な課程の質確保 ・「通信制高校の管理運営の適正化と教育の質の確保・向上」 ○機能再編のオプション ・「高等専門学校の新設(専門高校からの転換含む)」
(2) 地域住民、地元自治体、産業界などと連携した教育活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> ○关心と社会・仕事をつなぐ中間領域の仕組み(産業入門、地域課題研究、職業理解科目)[キャリア支援] (例)地元産業界等の協力による有償型インターンシップ (例)教育課程内のデュアルシステムの実践 ○コーディネーターの配置[産業・地域・大学連携] <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携コーディネーター:地域との連携の強化、探究的な学びの深化 ・企業内コーディネーター:役割定義と学校側窓口の設置 ○地域総合計画へ高校を位置づけ、共同プロジェクト化(探究×地域施策)[産業・地域・大学連携] ○産業界の参画を促す仕組みが必要[キャリア支援] ○理系人材育成プログラム(半導体・海洋・宇宙・マンガ等)[キャリア支援] (例)宇宙人材育成事業、国際超電導シンポジウム実行委員会と連携した講演及び国際学会会場への生徒参加 	<ul style="list-style-type: none"> ○企業が参画する動機(メリット)を明示し、連携が進む制度設計[産業・地域・大学連携] ○地域・企業が抱える課題を探究学習に取り入れるための制度設計[産業・地域・大学連携] ○全国の卒業生など外部人材のオンライン関与を強化[産業・地域・大学連携] ○企業参画インセンティブ(例:入札加点制度)の検討[産業・地域・大学連携] 	<ul style="list-style-type: none"> ○計画段階からの地域連携 ・「実行計画は教育委員会が中心、知事等の首長・関係部局、地域の関係者や産業界と十分に連携・協働」「総合教育会議等を活用」 ○产学研連携の教育実装 ・「専門高校×地域産業界の連携」「産業イノベーション人材育成」 ・「学校と地域が連携した学力向上・学習支援／域内共有」 ○社会課題志向・国際連携 ・「社会的課題の解決に向きあう学び」「国内外の大学・高校との連携」「留学生の派遣・受け入れ」
(3) 地域の将来を担う多様な人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○コーディネーターの配置[産業・地域・大学連携] <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携コーディネーター:地域との連携の強化、探究的な学びの深化 ・企業内コーディネーター:役割定義と学校側窓口の設置 ○職業直結型学科の再配置(通学可能圏内での配置最適化)[キャリア支援] 	<ul style="list-style-type: none"> ○レジリエンス、ストレス管理、自己調整力を育成する授業の強化[授業改革] ○離島・本土ともに全国募集での学びの拠点形成(例:「長崎遊学」の現代化)[授業改革] ○国際人材受け入れ(特に介護・看護など)と高校教育の連携の可能性を検討[産業・地域・大学連携] 	<ul style="list-style-type: none"> ○不足分野の人材育成 ・「2040年の理系人材不足・エッセンシャルワーカー不足への対応」「産業イノベーション人材」「DX・AIを使いこなす情報活用能力」 ○多様な資質・能力の涵養 ・「AIに代替されない能力(言語・情報・探究・協働)」「文理横断・探究」「STEAM」 ・「ロールモデルを感じながら学ぶ環境」「グローバル人材育成」 ○学科構成の見直し・接続 ・「普通科偏重の見直し」「専門高校の機能強化・高度化」「大学の理工・デジタル系育成強化」との有機的連携

県立高等学校再編にかかる大綱策定に向けての意見(検討依頼事項毎整理)

資料2

検討依頼事項	① 第1回創生会議	② 第2回創生会議	③ 高校教育改革に関する基本方針 グランドデザイン(骨子)
3 特色ある教育活動を可能にする教育環境整備の在り方			
(1) 教員の専門性向上と多様な人材活用	<ul style="list-style-type: none"> ○コーディネーターの配置〔産業・地域・大学連携〕 <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携コーディネーター:地域との連携の強化、探究的な学びの深化 ・企業内コーディネーター:役割定義と学校側窓口の設置 ○大学やURA等のリソース活用〔外部資金〕 	<ul style="list-style-type: none"> ○改革を先導するパイロット校を設置し、教員の余白を確保〔学校再編〕 ○コーディネーター活用により教員の業務負担を軽減し、改革を促進〔産業・地域・大学連携〕 ○外部人材の常時参画が可能な仕組みを制度化〔産業・地域・大学連携〕 	<ul style="list-style-type: none"> ○指導体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・「理数・DX・AI、探究、Society5.0対応STEAMに向けた指導運営体制の充実」 ・「主体的・自律的学修を支える環境構築」「厳格な成績評価と出口の質保証」 ○リーダーシップと評価改善 <ul style="list-style-type: none"> ・「校長のリーダーシップ」「スクール・ミッション／ポリシー」「学びの成果・課題の把握→改善→公表」 ○外部人材・产学官連携の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・「産業界の伴走支援」「国内外大学・高校との連携」「留学生との交流」
(2) 教育機会の確保に向けた再編後の支援体制の構築 (スクールバスの運行などの通学支援、交通費補助)	○路線バス再編、公共ライドシェアなどとの連携〔通学支援〕	○公共交通の関係機関との連携・調整〔通学支援〕	<ul style="list-style-type: none"> ○アクセス・学びの保障: <ul style="list-style-type: none"> ・「地理的アクセスの確保に留意」「学校間連携／遠隔授業で学びを保障」「一定規模の確保」 ・「通信制の管理運営の適正化と質確保・向上」「不登校・特別支援・日本語指導の充実」 ○高校教育における個人支援の拡充 <ul style="list-style-type: none"> ・「高校無償化の制度設計の検討」「奨学給付金の拡充」「申請手続のデジタル化と負担軽減」
(3) 柔軟な施設設備の整備 (地域連携スペース、企業Labo、魅力ある図書館)	<ul style="list-style-type: none"> ○40人未満の学級の実現〔施設整備〕 ○図書館を中心に据えた協働学習環境〔施設整備〕 ○教育活動に応じた机の配置〔施設整備〕 ○一定数の部活動を維持する学校づくり〔部活動〕 	<ul style="list-style-type: none"> ○AI・DXの活用に適した設備の整備〔施設整備〕 ○地域連携スペースや企業ラボなど、多様な人材が活動できる空間の整備〔施設整備〕 ○先端的な学びの拠点(例:県庁跡地活用など)の設置〔施設整備〕 ○多様な学びに応じた可変型学習空間の整備〔施設整備〕 	<ul style="list-style-type: none"> ○先端・探究・実践に資する基盤 <ul style="list-style-type: none"> ・「先端分野の専門的指導」「Society5.0対応STEAM」「文理横断・探究的学び」 →実装のための施設・機器整備(例:実験設備、プロジェクト拠点、スタジオ／ICT環境)が必要となる趣旨 ○地域・产学連携の拠点化 <ul style="list-style-type: none"> ・「学校と地域が連携した学力向上・学習支援」「域内共有」「産業界の伴走支援」 →地域連携スペースや企業協働の実習環境(企業Labo等)の整備の方向に整合 ○機能転換・再編に伴う基盤刷新 <ul style="list-style-type: none"> ・「高専新設／転換の促進」 →新設・転換時の施設・設備のアップデートが前提

県立高等学校再編にかかる大綱策定に向けての意見(検討依頼事項毎整理)

資料2

検討依頼事項	④ 魅力ある高校づくりに関するアンケート 【中学生・高校生・小中学校保護者】(令和7年7月～8月)	⑤ NEXT長崎人材育成事業令和7年度第1回 事業運営委員会【産業界】(R7.7.10)	⑥ 令和の長崎型学校教育構築のための意見交換会 【校長会】(R7.9.4)
I すべての生徒が「自己の在り方・生き方」を主体的に考え、多様な学びと社会参画を実現できる魅力ある新しい県立高校の在り方	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の「なりたい姿」に合わせ、幅広い学びを選択できる自由度の高い教育 ○普通科・専門科を問わず、本質的で質の高い学びを提供 ○専門性の高い分野（航空、アート×テクノロジー、起業、政策提言など）へのアクセス ○企業施設を活用した実践的学び、探究的学習・プロジェクト型授業の充実 ○多様な資格取得や検定試験への対応 ○生徒の主体性・探究心を育てる教育（自ら問いを立てる・社会課題解決など） 	<ul style="list-style-type: none"> ○学科横断的な学びを可能にし、進路変更・選択の柔軟性を高める仕組みが必要。 ○くくり募集や選択科目の拡大など、学びの自由度向上が重要。 ○分野間連携（農×工、商×情報、水産×福祉等）による新しい学びの創出。 ○学びを通して視野を広げ、他学科との交流により多様な価値観を身に付けられる環境づくり。 	<ul style="list-style-type: none"> ○総合学科・系列制・コース制・くくり募集など柔軟な学びの仕組みの導入 ○普通科×専門学科の融合、普通科の再定義 ○全日制・定時制・通信制を組み合わせた「フレキシブルハイスクール」型の検討 ○探究活動の強化、学科横断の授業設計、テーマ型の新学科（地域創生・福祉×テクノロジー等） ○生徒の進路希望に応じた1年次共通→2年次コース選択などの構造 ○他校授業の受講・社会人学習の受け入れなど、学びの対象の拡張
(1) 学科・課程の枠を超えた特色ある教育システムの構築			

県立高等学校再編にかかる大綱策定に向けての意見(検討依頼事項毎整理)

資料2

検討依頼事項	④ 魅力ある高校づくりに関するアンケート 【中学生・高校生・小中学校保護者】(令和7年7月～8月)	⑤ NEXT長崎人材育成事業令和7年度第1回 事業運営委員会【産業界】(R7.7.10)	⑥ 令和の長崎型学校教育構築のための意見交換会 【校長会】(R7.9.4)
(2)遠隔授業・ICT等を活用した個別最適な学びの実現	<ul style="list-style-type: none"> ○オンライン学習を活用した柔軟な学び ○ICTを使い、コミュニケーションが苦手な生徒や体調に不安のある生徒でも学習が続けやすい環境 ○持病や発達障害など、多様な特性に応じた学習方法の選択 ○AI時代に対応した創造的な学び(問題発見力・自律的解決力) 	<ul style="list-style-type: none"> ○AI・情報教育を全学科に横断導入し、時代に応じた基礎的スキルを育成。 ○ICT活用により、場所に縛られず必要な授業を受けられる環境整備。 ○少人数・柔軟な授業編成(学級定員の弾力化など)による個別最適化。 	<ul style="list-style-type: none"> ○遠隔授業による単位取得、離島・半島の学びの格差解消 ○ICT活用(AI学習、生成AIの活用指針、ICT環境整備) ○校舎の分散を補う学年合同授業、縦のカリキュラム構造 ○教員不足の補完、専門教員の確保に遠隔授業を活用 ○通信制との併設や週3通学型の柔軟なスクーリング体制
(3)外部専門機関との連携による持続可能な教育体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ○地元企業(例:三菱重工など)との連携による独自授業 ○社会人との交流・企業 Labo での体験的学び ○大学・高専並みの専門分野との接続(佐世保高専的な学び) ○起業・金融リテラシー・ライフプランニング等を外部と連携して学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ○企業・大学・関係機関との連携を強め、最新の技術・知識を取り入れる。 ○外部講師の活用により、教員自身の知識アップデートにも寄与。 ○高大連携(例:水産分野の大学との系属連携)による学びの継続性確保。 ○地域産業との協働による「学び→実践→就職」までの切れ目ない支援体制。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域企業・団体と連携した課題研究・インターンシップ(有償型含む) ○産業界(水産・農業・工業・商業・福祉・情報・芸術・観光・洋上風力等)との協働 ○地域コーディネーター、外部人材の活用による教員負担軽減 ○大学・専門学校・自治体・NPOとの協働 ○ふるさと留学、地域キャンパス構想、小中高一貫教育との連携強化

県立高等学校再編にかかる大綱策定に向けての意見(検討依頼事項毎整理)

資料2

検討依頼事項	④ 魅力ある高校づくりに関するアンケート 【中学生・高校生・小中学校保護者】(令和7年7月~8月)	⑤ NEXT長崎人材育成事業令和7年度第1回 事業運営委員会【産業界】(R7.7.10)	⑥ 令和の長崎型学校教育構築のための意見交換会 【校長会】(R7.9.4)
2 社会や地域の期待に応える特色ある再編整備の方向性			
(1) 15年後を見据えた規模の適正化(地域ごとの学校数や学校規模、小規模校の再編整備の在り方)	<ul style="list-style-type: none"> ○小規模校でも高校生活ならではの体験が得られる仕組み ○離島やへき地でも学びの質を確保 ○地元から通いやすい、島内進学へのニーズ 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の人口減少や産業構造を踏まえ、学校数や規模を最適化。 ○小規模校の強みを残しながらも、持続可能な再編(統廃合ではなく“再編”)。 ○公立だけでなく私立を含めた広い視野での再編設計が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ○少子化により学校維持が困難な地域での複数校の統合・キャンパス型統合 ○8学級未満の学校の再編、島・半島部の将来的な1校体制の議論 ○跡地活用の提示による地域理解の促進 ○中高一貫校の可能性、ゼロベースでの学校名称・学校像の刷新
(2) 地域住民、地元自治体、産業界などと連携した教育活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の企業、自治体との連携 ○地域と協働した探究・課題解決活動 ○地域の治安や安全環境への期待 ○学校を地域の拠点として活用(地域と繋がる教育) 	<ul style="list-style-type: none"> ○産業界・地域が学校と協働し、魅力発信・体験機会を創出。 ○オープンスクールや文化祭への企業参加など、交流の場を拡大。 ○地域イベントとの連動(例:福祉まつり、水産業イベント)による理解促進。 ○産学官で「共通の理念」を共有し、持続的な協議体制を構築。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域密着(農水産、工業、観光、福祉など)型の学びの継続 ○自治体との協働による通学支援・施設整備(寮・交通網) ○地域での探究、商品開発、起業教育、資産運用など実践的学び ○地域との対話会や意見反映、学校新聞・情報発信の強化 ○地域の将来像と学校づくりを一体化した「まちづくりと連動する学校」の創出
(3) 地域の将来を担う多様な人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○一般教養・金融教育・社会保障の知識など、社会で必要となる力の育成 ○多様性(ジェンダー、障害、体調面など)を受容する校風 ○コミュニケーション力、議論力、発信力の育成 ○スポーツ・文化活動などへの意欲にも応える環境 	<ul style="list-style-type: none"> ○専門分野の強みを活かしつつ、柔軟に複数分野を学べる仕組みを整備。 ○地域に必要な人材(建設・水産・農業・情報等)を計画的に育成。 ○早期からの魅力発信により、郷土愛・地域への帰属意識を育む。 ○企業側も受け皿として変わる姿勢が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地元就職・Uターンを見据えた教育 ○外国ルーツの子ども、不登校生、発達障害のある生徒への対応強化 ○探究活動を通じた地域定着意識の育成 ○学力重視コースと探究重視コースの併存 ○ブルーカラー領域の専門人材育成と進学支援の両立

県立高等学校再編にかかる大綱策定に向けての意見(検討依頼事項毎整理)

資料2

検討依頼事項	④ 魅力ある高校づくりに関するアンケート 【中学生・高校生・小中学校保護者】(令和7年7月~8月)	⑤ NEXT長崎人材育成事業令和7年度第1回 事業運営委員会【産業界】(R7.7.10)	⑥ 令和の長崎型学校教育構築のための意見交換会 【校長会】(R7.9.4)
3 特色ある教育活動を可能にする教育環境整備の在り方			
(1) 教員の専門性向上と多様な人材活用	<ul style="list-style-type: none"> ○多様性に対応した指導力の強化 ○外部専門家(企業・大学・地域)の活用 ○生徒の特性理解(発達障害・体調不良経験など)に配慮できる体制 	<ul style="list-style-type: none"> ○教員の現場実習・企業研修など、実践的スキルのアップデートが必須。 ○外部専門家・企業の人材を授業に積極活用(例:観光ビジネス分野での外部講師2/3授業)。 ○教員不足への対応として、柔軟な人材確保の仕組みを整備。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教員のスキルアップ(探究・ICT・ファシリテート能力) ○若手教員の意見反映、教員の働き方改革、複数教頭制の検討 ○外部人材(企業人、大学教員、地域コーディネーター)による支援 ○小中高一貫での教員連携、教員が長期勤務できる人事制度 ○免許外教科への対応、業務支援員配置による負担軽減
(2) 教育機会の確保に向けた再編後の支援体制の構築 (スクールバスの運行などの通学支援、交通費補助)	<ul style="list-style-type: none"> ○親元から通える仕組みへの要望 ○離島・遠隔地からの通学支援(スクールバス、交通費補助など) ○不登校経験のある生徒でも進学しやすい柔軟な教育環境 ○アルバイト可など、生徒の生活事情に配慮した制度 	<ul style="list-style-type: none"> ○スクールバス運行や交通費補助など、通学支援の充実。 ○離島・半島部の特色を活かした現場実習の場を確保。有償インターンシップの交通費補助など、行政による後押し。 	<ul style="list-style-type: none"> ○スクールバスの県運営・増便、交通費補助 ○寮の整備・下宿支援、里親制度の改善 ○地域による交通インフラ(バス・バイク通学)の支援 ○私立との差を埋める補助制度の見直し ○離島・半島部の生徒を守る通学環境整備が再編成否の鍵
(3) 柔軟な施設設備の整備 (地域連携スペース、企業Labo、魅力ある図書館)	<ul style="list-style-type: none"> ○地域連携スペース、企業Laboなど校内に「開かれた学びの場」を整備 ○充実した図書館 ○学食・学校給食の要望 ○施設・設備の充実(部活動環境を含む) ○制服や通学用品のデザイン改善(ジェンダーレス対応含む) ○学校・周辺地域の治安・安全の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域連携スペースや企業Laboなど、協働しやすい環境づくり。 ○魅力的に学習意欲を高める図書館・探究スペースの整備。 ○予算不足による教材・設備不足の解消(課題研究等に必要な資材支援)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域連携スペース、企業Labo、図書館などの拠点整備 ○ICT環境整備(高速通信、端末、オンライン授業設備) ○校舎の老朽化対応、新校舎の前倒し建設 ○特別支援学校併設、キャンパス型統合での一体感の確保 ○グラウンド・体育館など既存施設の活用と魅力化

県立高等学校再編にかかる大綱策定に向けての意見(検討依頼事項毎整理)

資料2

検討依頼事項	⑦ 令和の長崎型学校教育構築のための意見交換会 【副校長・教頭会】(R7.10.29)	⑧ 令和の長崎型学校教育構築のための意見交換会 【教諭会】(R7.11.19)	⑨ 魅力ある高校づくりに関するアンケート 【県立高校教職員】(令和8年1月)
I すべての生徒が「自己の在り方・生き方」を主体的に考え、多様な学びと社会参画を実現できる魅力ある新しい県立高校の在り方			
(1) 学科・課程の枠を超えた特色ある教育システムの構築	<ul style="list-style-type: none"> ○1年次共通・2年次以降のコース選択制の導入(多くの班で支持) ○普通科×専門学科の融合、複数学科を1校に集約し「学科横断の学び」を可能に ○総合学科の課題(人員不足・小規模運営の限界)が指摘される一方、 ○選択肢の広さ・多様な学びの魅力は評価 ○特別支援・通級機能との融合、インクルーシブ教育の重視 ○進学・就職双方に対応できる「ハイブリッド型普通科」の必要性 ○探究・課題研究を軸とし、地域・企業・大学と連携した教育の拡充 	<ul style="list-style-type: none"> ○1年共通 → 2年次以降にコース選択(大学のような設計): 総合学科や普通科でも、入学後に適性を見て系列・学科を選べる柔軟な仕組みを求める声が多数。学科横断履修・他系列科目の受講を可能にする設計が望ましい。 ○学科横断・学校横断の学び: 普通科×専門(農・工・商・福祉・情報など)のコラボ、学校間乗り入れ、県設定科目(外部連携)の全県導入など、境界を超えた履修の要望。 ○多様な生徒の受け皿: 不登校経験や学び直しニーズへの対応として、定時制・通信制の機能や少人数クラスを同一校内で併設し、手厚さと選択肢を両立。 ○地域資源に根差した新科目: 観光ビジネス、インバウンド、地域科学、農水産・福祉・半導体等の地域・産業ニーズと接続する学校設定科目や学科の新設。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学科横断的な学びを可能にする総合型カリキュラムの構築 農・工・商の連携や総合学科化による柔軟な選択科目体系が求められている。 ○地域・産業界を巻き込んだリアルな学びの場づくり 課題解決型学習(PBL)や販売実習、起業教育など、実社会につながる学びを強化する必要性が高い。 ○学校ごとの明確なミッションとブランド形成 進学・就職・国際・地域などテーマ別に明確な特色を打ち出し、スクールアイデンティティを構築することが重要。 ○多様な学びを支えるコース制・くくり入学の導入 生徒が将来を見据えてコースを選択できる体制を整える必要がある。 ○全日・定時・通信の三課程併置による「フレキシブルハイスクール」化 不登校生や就労希望者、学び直し希望者など多様な背景の生徒が学べる仕組みの整備。 ○失敗から学ぶことを評価する柔軟な制度設計 半期認定・単位バンクなど、挑戦と再挑戦を制度面で支える仕組みの導入。 ○地域全体で高校を支える「学びのハブ」化 学校を地域コミュニティの学習拠点として位置付けることで社会参画を促す。

県立高等学校再編にかかる大綱策定に向けての意見(検討依頼事項毎整理)

資料2

検討依頼事項	⑦ 令和の長崎型学校教育構築のための意見交換会 【副校長・教頭会】(R7.10.29)	⑧ 令和の長崎型学校教育構築のための意見交換会 【教諭会】(R7.11.19)	⑨ 魅力ある高校づくりに関するアンケート 【県立高校教職員】(令和8年1月)
(2)遠隔授業・ICT等を活用した個別最適な学びの実現	<ul style="list-style-type: none"> ○離島や半島部での遠隔授業の活用は必須 ○オンデマンド教材、AI・ICTドリル導入、スタディサプリ等の事例 ○通信制併設型の学び、週3登校型などの柔軟なスクーリング ○ICT活用には「教員のスキル差」「受益者負担」「電波・時程調整」等の課題あり ○個別最適化と共通必修のバランスをとる必要性が指摘 	<ul style="list-style-type: none"> ○遠隔・オンラインの拡充と学校間連携:教員不足科目(例:物理)補完、離島・半島の学習機会確保、オンデマンド活用、通信制機能とのハイブリッド化を前提にした設計。時程調整や通信環境など運用の工夫が前提。 ○AI・デジタル活用の標準化:生成AI・サブスク教材・LMSによる個別最適化、情報リテラシー強化、知識「活用」力と真偽判断力の育成。知識伝達→活用への転換を授業設計で実現。 ○基礎学力と探究の両立:ベーシック科目や学び直しの時間を確保しつつ、PBL・探究と座学の融合で「自ら学ぶ力」と進路に直結する力を育成。 	<ul style="list-style-type: none"> ○遠隔×対面によるハイブリッド型教育の体系化特に離島や半島地域、小規模校で科目選択の幅を確保するために必須。 ○学習ログとAI分析を活用した学力保障システムの構築生徒のつまずき可視化、学習支援の個別化に資する。 ○ICT支援員・技術スタッフの常設で教員負担を増やさない運用体制の確立 ICT導入のみでは効果が出ないという現場の声が強い。 ○基礎学力保障と学び直しの仕組み強化 補習・リメディアルのオンライン化、教材のデジタル化など。 ○少人数指導と個別最適化の両立 ICTと人の支援を組み合わせたハイブリッドな個別指導の構築。 ○機器・回線の整備とICT環境の安定運用 ○オンラインを活用した地域・企業との協働学習の拡大
(3)外部専門機関との連携による持続可能な教育体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ○企業・自治体・大学・NPO・地域住民との連携深化 ○産業界(水産・農業・工業・商業・福祉等)と結びついた ○実習・探究・インターンシップの拡充 ○教員不足を補うための外部人材・コーディネーター・支援員の活用 ○地域との協働で学校を「まちづくりの核」にする発想(校舎再利用・学園都市構想) 	<ul style="list-style-type: none"> ○企業・商工会議所・大学との本格連携:有償型インター、企業協働の課題研究、大学・研究機関との連携で探究と実学を接続。OB・OGや地場企業とのネットワーク活用が有効。 ○コーディネーター配置:地域・企業・大学をつなぐ専任人材(学校内外)を置き、連携の継続性と先生方の負担軽減を実現。 	<ul style="list-style-type: none"> ○大学との連携強化による探究・研究機会の拡大 高大接続カリキュラムや内部進学ルート整備を期待する声が多い。 ○企業との協働で実践的スキルや資格取得の幅を広げる社会で役立つ資格取得を求める声が多く、産業界の協力が不可欠。 ○探究コーディネーターの設置で教員負担を軽減 ○地域団体との協働で「地域課題を解く高校」へ進化 ○行政・自治体との連携による地域ぐるみの教育体制の整備

県立高等学校再編にかかる大綱策定に向けての意見(検討依頼事項毎整理)

資料2

検討依頼事項	⑦ 令和の長崎型学校教育構築のための意見交換会 【副校長・教頭会】(R7.10.29)	⑧ 令和の長崎型学校教育構築のための意見交換会 【教諭会】(R7.11.19)	⑨ 魅力ある高校づくりに関するアンケート 【県立高校教職員】(令和8年1月)
2 社会や地域の期待に応える特色ある再編整備の方向性			
(1) 15年後を見据えた規模の適正化(地域ごとの学校数や学校規模、小規模校の再編整備の在り方)	<ul style="list-style-type: none"> ○少子化により小規模校の維持は困難 ○複数校を集約し、1校+サテライト校とする案が多く挙がる ○校舎の新設、中立的で通いやすい立地の新校が必要との意見 ○校名や伝統の喪失に対する地域・同窓会の懸念 ○離島は「1島1校」維持が限界の地域も 	<ul style="list-style-type: none"> ○基準規模の明確化と集約:行事・探究・部活動を生徒主体で回すにはある程度の学級数が必要という実感。少人数の良さ(顔が見える配慮)と、一定規模のメリット(選択肢・進路・部活・教員複数配置)を両立する“適正規模”での集約が必要。 ○「新設校」発想:校名・イメージの刷新で合意形成を図り、既存校の“統廃合”ではなく「新しい学校を創る」前向きな再編へ。 ○離島・半島の特殊性:通学困難や家庭事情で島外進学が難しい層を想定。島内“1校案”やキャンパス制の是非、通学支援の有無で影響が大きく変わる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○少子化に対応した学校規模・配置の見直し(学級数・学級規模の最適化が必要) ○個別支援と学力保障を行う上で効果が期待される20~30人規模の少人数学級の実現 ○拠点校化・統合による教育資源の集中(教員配置や設備投資の効率化) ○専門高校の設備移転が困難な場合の慎重な判断 実習設備の移設は現実的でないため、統合判断は慎重にとの指摘。
(2) 地域住民、地元自治体、産業界などと連携した教育活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の産業構造(水産・農業・観光・福祉等)と連動した学び ○企業連携、課題研究、地域の祭り・行事との協働 ○校舎跡地利用、大学や専門学校の誘致、 ○地域還元を前提とした再編の必要性 ○地域ニーズ(交通、学科、部活動、進路)の丁寧な把握 ○自治体による交通・寮補助、コーディネーター配置の必要性 	<ul style="list-style-type: none"> ○まちづくり連動:地域産業(農・水・工・商・観光・福祉)と接続した探究・実習、自治体の補助や講座連携、公設塾・企業授業等の導入。地元就職・Uターン志向と直結する学びの可視化が鍵。 ○地域目線の広報:中学生・保護者が高校を選ぶ理由(アクセス、部活、学校の雰囲気、早期内定・年内入試等)を踏まえ、選ばれる魅力を明確に発信(SNS・パンフ・オープン講座)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域課題を題材とした探究学習の体系化 ○産業界とのコラボレーションによる実学教育の強化 ○自治体の振興計画と学校改革を結びつける(地域の将来像と連動した学校づくり) ○大学との協働で高度な探究・研究を可能にする ○地域イベントや公共施設との連携による社会参画機会の拡大 ○地域団体・NPOと連携した福祉・防災教育の実施 ○地域住民を巻き込む学校プランディングの推進
(3) 地域の将来を担う多様な人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○大学進学・地域就職の双方を可能にする学校づくり ○外国ルーツの生徒、不登校経験者、発達支援を要する生徒への対応強化 ○探究を通じた地域課題発見・解決力の育成 ○地域を愛し、自ら地域に関わろうとする「Uターン意識の醸成」 ○小中高の連携によるキャリア形成の一貫性 	<ul style="list-style-type: none"> ○一次産業・半導体・グローバル等に対応:地場産業×デジタル(DXハイスクールの機器・実習)や語学・国際分野等、地域課題に直結した人材像を提示。 ○キャリア基礎とソーシャルスキル:マナー・コミュニケーション・職業理解・金融/価格感覚など、社会人基礎力を科目・探究・インターンで育成。 	<ul style="list-style-type: none"> ○進学・就職・起業など多様なキャリアに応じた教育の提供(コース制や単位制の柔軟運用) ○デジタル人材育成の基盤となるAI・ICTなど先端分野の学びの充実 ○資格取得や職業教育を充実させ地域の産業人材を育成 ○不登校生・多様な生徒への包摂的教育体制の整備(フレキシブルな在籍形態や中間的学びの場の整備)

県立高等学校再編にかかる大綱策定に向けての意見(検討依頼事項毎整理)

資料2

検討依頼事項	⑦ 令和の長崎型学校教育構築のための意見交換会 【副校長・教頭会】(R7.10.29)	⑧ 令和の長崎型学校教育構築のための意見交換会 【教諭会】(R7.11.19)	⑨ 魅力ある高校づくりに関するアンケート 【県立高校教職員】(令和8年1月)
3 特色ある教育活動を可能にする教育環境整備の在り方			
(1) 教員の専門性向上と多様な人材活用	<ul style="list-style-type: none"> ○専門教員確保が困難、特に工業・情報・福祉分野 ○若手育成、教科会・校種間交流の促進 ○生成AI・ICT・特別支援の研修必須 ○部活動の地域移行、部活動専門職員の配置 ○業務整理と支援員増員により、教員の負担軽減 ○教員の魅力化・働き方改革(勤務体制柔軟化など) 	<ul style="list-style-type: none"> ○教員の“伴走力”とチーム化:個別最適化・探究・特別支援対応・地域連携など役割が拡大。複数担任制／分業(担任部)、支援員・非常勤・コーディネーターの活用で教員が授業・探究に集中できる体制へ。 ○研修と学び直し:探究指導・ICT/AI活用の教員研修、若手が力を発揮できる配置、同教科複数配置による相談体制。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教員数の確保と待遇改善による人材定着 ○授業研究を中心に据えた勤務環境の再構築 ○業務削減と働き方改革による余裕の創出 ○ICT支援員、事務職専門職の配置で教員負担を軽減 ○研修・視察の保障による教員の学び合い文化の形成 ○専門職(SC・SSW)による生徒支援の高度化
(2) 教育機会の確保に向けた再編後の支援体制の構築 (スクールバスの運行などの通学支援、交通費補助)	<ul style="list-style-type: none"> ○交通弱者に対するスクールバス整備・交通費補助 ○寮・下宿の確保(舎監の外部委託などの課題) ○離島では移動手段自体がネック—バイク通学・地域バス支援など ○遠隔授業を活用した「通えない地域」の教育保障 ○私立との費用格差解消 	<ul style="list-style-type: none"> ○スクールバス・寮・下宿の整備:土日・夕刻の便不足、定時制の帰宅時交通、女子下宿不足等を補う支援。寮は舎監・寄宿舎指導員レベルの専門配置と保護者負担軽減策が必要。 ○バイク通学の柔軟運用:安全講習の徹底等を条件に、通学困難地域の移動手段として活用している事例。 ○オンライン補完:通学困難や教員不足科目にオンラインを組み合わせ、学びの保証を担保。 	<ul style="list-style-type: none"> ○統廃合に伴う通学圏拡大への必須対応策としてスクールバス運行、家計負担が高校選択に影響しないようにする措置として交通費補助制度の拡大 ○公共交通の減便への対応策の構築 ○オンライン活用による通学負担軽減策の検討(一部授業を遠隔化するハイブリッド登校モデル) ○障がいのある生徒や不登校生への通学支援体制の強化
(3) 柔軟な施設設備の整備 (地域連携スペース、企業Labo、魅力ある図書館)	<ul style="list-style-type: none"> ○校舎の老朽化—統合と同時に新校舎整備が説得材料に ○企業Labo、地域交流スペース、図書館等を備えた ○多機能キャンパス化 ○実習設備(農・工・商)は地域産業の核として残すべきとの声 ○サテライト校の整備には「一体感欠如」のリスク指摘 ○コンビニ、学食、スタジアムシティ型施設など「魅力ある環境整備」の提案も 	<ul style="list-style-type: none"> ○実習・DX環境の更新:3Dプリンター、ドローン、半導体実習、介護機器等を備えた企業Labo型環境、魅力ある図書館・自学ブース・質問コーナーなど学習空間の再設計。 ○校舎・トイレ・空調などの快適性:私学との比較で見劣りしないワクワクする校舎、大会・発表会にふさわしい会場設計や中高連携スペースの発想。 ○キャンパス制の慎重運用:行き来の負担や一体感の希薄化に配慮し、原則は1校1拠点での完結性を高めた上で必要科目のみの乗り入れを検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ○最新の実習設備・機材の導入 ○地域連携スペースの設置(地域住民・企業・団体と学びを共創する拠点) ○先端技術・産業と接続した学びの提供のため企業ラボ・実験スペースの創設 ○学校文化を象徴する空間として魅力ある図書館の整備(学習スペース・ICT連携含む) ○寮・生活施設の整備で全国から生徒を呼び込む環境を整える